



# 創立記念日にあたって

宮城県宮城第一高等学校

## 1 開校からの歩み

本校は、明治30年(1897年)4月12日、今から125年前に「仙台市高等女学校」として仙台市東二番丁の地に開校しました。明治33年4月に宮城県に移管され「宮城県高等女学校」と改称し、その後も幾度か改称し校地の移転を行いました。昭和23年4月には学制改革により「宮城県第一女子高等学校」と改称し、昭和28年7月25日に北六番丁から八幡一丁目(旧中島丁)の現在地に移転しました。

平成9年度には創立100周年を迎えるとともに、普通科に加えて新たに理数科を設置し、平成14年度から4年間は文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)の指定を受けました。平成20年4月より男女共学となり、「宮城県宮城第一高等学校」に改称するとともに、進学重視型単位制高等学校となりました。SSHなどの経験を生かし、自他や真理を尊ぶ精神の昂揚などを目指して国際教育や高大連携に力を入れており、姉妹校である英国シティ・オブ・ロンドン・フリーメンズスクールや研修旅行先の台湾台南第一高級中学などとの生徒交流、大学教授や著名な社会人を招聘した講演会の開催などを積極的に行っています。

令和4年4月学科改編により、この4月入学生から理数科2学級が「国際探究科・理数探究科」2学級となりました。これまでの理数科の蓄積と国際交流などを生かし、高度な探究活動に取り組む学科を設置しました。

令和4年度の今日、開校125周年目を迎え、この3月で33,247名(高等学校としては25,624名)の卒業生を輩出し、海外も含め社会の様々な分野で皆さんの先輩が活躍しています。著名な卒業生としては、ハリー・ポッターシリーズを翻訳した松岡佑子氏、東大名誉教授で現中部大学特任教授の黒田玲子氏、最高裁判所判事(2021年7月就任)渡邊恵理子氏、第41回猿橋賞(2021年)を受賞した東京工業大学教授の田中幹子氏などです。

## 2 宮城第一高等学校の今

4月8日に第77回入学式を挙行し、「国際探究科・理数探究科」初の入学生が入学しました。今年度、1年次普通科5学級と国際探究科・理数探究科2学級で計7学級、2・3年次それぞれ普通科5学級と理数科2学級で計7学級、全年次で21学級834名の在籍となりました。タブレット端末(iPad)の生徒全員購入が令和3年度入学生から行われ、2年目を迎えました。生徒の皆さんは、タブレット端末を学校生活の様々な場面で活用しています。生徒のみなさんには、感染拡大防止のために、マスクの着用など様々な感染防止対策をお願いしています。しかし、このような時だからこそ「自主自律」の精神で、出来ることや成すべきことに全力で取り組んでもらいたいと思います。

## 3 未来へ

現在、校舎の老朽化に伴い、令和5年(2023年)の供用をめざして校舎改築工事が行われています。令和2年8月から仮設校舎での学校生活が行われており、仮設校舎は全教室エアコン、プロジェクター、Wi-fi完備です。この学び舎で、自らの進路実現を目指し、未来を拓いていく気概を持って、日々悔いのないよう過ごしていただきたいと思います。

創立記念日にあたり、これまでの歴史と伝統に思いを馳せるとともに、未来に向けて各自の志を再確認しましょう。



仮設校舎(令和2年8月から使用)